

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2774900555		
法人名	有限会社ケア・プラザ		
事業所名	ケア・プラザれんげの里		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護		
所在地	大阪府富田林市向陽台一丁目4番16号		
自己評価作成日	2022年5月25日	評価結果市町村受理日	2022年7月6日

【事業所基本情報】(介護サービスの情報公表制度の基本情報リンク先URLを記入)

[https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_022\\_kani=true&JivvosvoCd=2774900555-00&ServiceCd=320&Type=search](https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JivvosvoCd=2774900555-00&ServiceCd=320&Type=search)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護保険市民オンブズマン機構大阪		
所在地	大阪府大阪市北区天神橋3-9-27 PLP会館3F		
訪問調査日	2022年6月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

従業員に対しては、いきいきと働くことができる職場環境、その基盤が利用者様、ご家族への好循環になると考えております。マンパワー不足が深刻な中、少しでも心理的なゆとりを拡大できるように人材確保に努めております。事業所では、散歩、太陽を浴びることを積極的に行うこと。自炊により家庭的な雰囲気確保すること。小さなお声掛け、みんなで笑うこと。それらを日々の生活において大切にしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは富田林市の商業地域にあり、近くに総合病院、富田林市ケアセンター(複合施設あばる)があります。フロアからは、ゴルフ場やPLの塔を背景に季節の移ろいを眺める事ができます。緑豊かな遊歩道がすぐ近くであり、散歩は日常的なものとなっています。「付き添い、寄り添い、見守るケア」を始めとした理念を掲げ、利用者の尊厳を第一にしたケアを実践しています。理念に沿って職員一人ひとりが毎月目標をたて自己評価も行い、理念の確かな実践への工夫も行っていきます。隣接するクリニックとの24時間体制の医療連携は、利用者・家族の大きな信頼と安心に繋がっています。ホームでは看取りを実施し、職員は看取りでの経験から得た貴重な学びを日常のケアに活かしています。またフロア毎の手作りの食事にも利用者様に喜ばれています。管理者が「ホームの自慢は職員。職員のバイタリティに押されて仕事できています」と言うように、管理者は職員の支えに感謝し、職員は管理者の職務に敬意を払う職場環境の中で一丸となって利用者の暮らしを支えているれんげの里は、ほのぼのとした温かい雰囲気に溢れるグループホームです

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

己 自部 外	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>				
1	(1) ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送り時に、理念に基づく今月の自己目標の確認、そして理念の唱和を実施して、意識、再確認を促しています。	「付き添い寄り添い見守るケア」を始めとした理念を掲げ、朝の申し送り時に理念を唱和しています。職員各自は、毎月理念に沿って目標を立て自己評価を行い、理念の確かな実践に繋がっています。自己評価をもとに管理者は随時職員と面談を行っています。	玄関等に、理念の掲示を検討されてはいかがでしょうか。職員が日常的に理念を確認したり、外部からの訪問者に理念を理解・支持してもらうことに繋がることを期待します。
2	(2) ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍中の昨今では、交流が完全に途絶えております。富田林市よりピア相談員の受入を再開できたことが小さな未来へのワンステップになると考えております。散歩を積極的に行う中で、地域の方々と顔合わせ、ご挨拶ができております。	これまでは、地域の花見や盆踊り、小学校の運動会へ参加する等、地域との交流は積極的に行ってききましたが、現在はコロナ禍で中止の状況です。 富田林市認知症条例でのグループホームの役割について勉強会を実施し、期待される役割について学びました。日常的となっている散歩では、地域住民が声をかけてくれます。体調の都合で散歩に行けない日が続く利用者のことを気にかけて「最近どうしている？」と声をかけてくれる商店主もいます。	
3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍でも、挨拶などを積極的に行っております。相手側からも、お話し時に気を付けてくださる様子が見えがえします。開放できる時に備え、しっかりと元気な姿を非言語コミュニケーションで示し努めております。		

己 自部 外	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3) ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	密の防止から推進会では、広く家族様とお話しする機会を得難い状況ですが、面会時ケアマネ、管理者が要望などをお聞きして個別にその返答をさせて頂いております。日々サービスを見直しの検討を柔軟に思案する姿勢をお伝えしております。	運営推進会議は、利用者・家族・地域住民・地域包括支援センター職員の参加で2ヶ月毎に実施し、参加者から評価や助言を得て、ホームの運営に活かしてきました。コロナ禍で現在は多数の参加はできない状況ですが、地域住民代表にホーム運営の報告を行っています。会議は利用者の暮らしがわかるリビングで行っています。	
5	(4) ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	グループホーム交流会や推進会の報告書提出、社用で来庁するときなど、ご担当者様の様子を見て積極的に現状などをお伝えようするに意識をしております。	市役所に行く機会は多く、相談事がある時は、市の高齢介護課で顔を合わせて相談しています。管理者はグループホーム交流会の役員を務め、交流会には市の職員も参加し、情報交換や連携を行ってきました。コロナ禍で中止が続きましたが、今年6月に復活することができ、コロナ対策でお世話になった市に感謝を伝えています。また、毎月市からピア相談員(介護相談員)の訪問があり、利用者の話を聞いています。	
6	(5) ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3カ月に1回、拘束の話あいで、なにが拘束にあたるかを刮目する機会を設けております。玄関の施錠は取り組み後、行方不明者を出す結果になりましたが、前向き、また家族様の思いなども尊重し、取り組みをさせて頂いております。	身体拘束に関する研修を実施し、職員の意識向上を図っています。管理者は「自由を奪うことは身体拘束」との考えを職員に常に伝えています。また、身体拘束適正化会議を2ヶ月に1回運営推進委員会時に開催し、身体拘束防止について話し合っています。身体拘束の事例はありません。玄関は施錠せず、自由に出入りできるようになっています。管理者は、利用者だけでなく職員にも関心を寄せ、職員の話しを聞くことに心がけて、職員のストレスへの配慮を行っています。	

己 自部 外	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に虐待に関する研修会を開催しております。また職員個人の生活の歯車が崩れた時に、生じてしまう事例をあげ、会社として受容し、解消できるようにサポートすること伝達しております。		
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度に関する知識は、定期的に研修を行い周知を図っております。実際に活用・説明できない場合は、地域包括にしっかり、つなぐこと。そのようなグループホームの役割と責任ある行動にも注力しております。		
9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	行っております。羅列した分かりづらい文言においては、例文や過去の事例等を丁寧にご説明したうえで、理解、納得を図った上で、ご判断をお願いしております。		
10	(6) ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々のコミュニケーションからの信頼関係が、ご意見の表出につながると考えております。小さなご要望からでも前向きに検討させて頂いております。必ずその対応に関してはご返事することを固持しています。	コロナ禍のため、府や市の方針に沿って面会の方法を決めています。現在は、時間を決めて玄関や外での面会となっています。利用者の暮らしがわかるようにコミュニケーションアプリ(LINE)で動画を送っています。面会が自由できない状況を家族に説明する中で、家族の親に対する愛情を改めて感じ、毎日のケアに活かしています。	

己 自部 外	項 目	外部評価	
		自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
11	(7) ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の方は、ミーティングでは、言えない。これは定説になっております。打開策として個人レベルでアプローチするようには努めております。	ミーティングでは職員の考えを確認し、必要な時は管理者自身の考えを説明し、日々のより良い支援に取り組んでいます。管理者は日常的に職員が話しやすい雰囲気づくりを心がけています。管理者は「ホームの自慢は職員。職員のバイタリティに押されて仕事できています」と言い、職員は「管理者がきちんと情報をくれるので仕事がしやすい」と言うように、管理者は職員の支えに感謝し、職員は管理者の職務に敬意を払う整った職場環境は、少ない離職者数に表れています。
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務日数や時間帯などの希望を可能な限り配慮できるように各階でシフトを分けております。また職位や役割を設置し、工夫して行うことを評価することで意欲向上に繋がっていくように考えております。	
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格に基づく外部研修や長期間にわたる研修、会社から依頼する研修に関しては、日勤として参加して頂けるように体制を整えております。	
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現状は3か月に一度のグループホーム交流会や定例開催の認知症条例に係る取り組みなどで得た知識や活動をアウトプットして、学ぶ機会を頂いております。	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期段階は不安、混乱、過剰防衛機制など様々な心身状況、変化があることを周知した上で、職員には傾聴と受容、また丁寧なお声掛けの必要性を求めています。同時に「新しい生活」という考えをもち、家族様にもご協力願います。	

己 自部 外	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人様への支援と同様にご家族様への支援に尽力することをお伝えしています。同時にご入所後に起こり得る見当識の認知症状に関しても、ご不安解消の為、事前にお話ししていくように心がけております。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様が、その時必要としている支援を見極め、または直接伺い、アセスメントを終えて、行えるように努めております。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気、暮らしを大切にしております。集団生活での関係や個人的な要望などを含め、様々な事象がありますが、一つの大家族とさせていただけるように日々励んでおります。		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様、キーパーソン様も様々なご事情や思いがある中で、単純化、画一化そして直線的な考えにならないように念慮しております。家族様の力をお借りする時は大胆に伝え、制限して頂きたい時も同様に、根拠をもってお話し致します。		
20	(8) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍では、厳しい支援結果になります。ただ思い出を忘れてしまわれぬように、どこかでその思いを回収できQOL向上に繋がるように、角度を変えて支援に努めております。	職員は、これまでの馴染みの関係を少しでも継続することが利用者にとって大切なことと理解し、支援に努めています。コロナ禍で馴染みの人たちとの面会ができない状況ですが、手紙や年賀状を出すときは職員がサポートしています。散歩の途中にある富田林市ケアセンター(複合施設けあばる)は、利用者にとって大切な馴染みの場所でもあります。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	どれだけ気難しい気質の方でも、必ず心を開けてくれる未来があり、その未来の実現に向けて行うことは「今」の声掛けの積み重ねであること。そういう思考や支援に努めております。		

己 自部 外	項 目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	共に一つの地域で暮らす住民として、契約の有無よりも繋がることの有益性を考えております。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様の希望に沿うことができるように、しっかりとお話を聞かせて頂いております。また話すことができるように日々関係性の構築に努めております。	理念のひとつに「付き添い寄り添い見守るケア」を掲げ、利用者一人ひとりの思いや意向を聞きとっています。利用者ができる力を引き出す「見守る介護」を心がけています。管理者は職員に「利用者一人ひとりのことを詳しく知る」「利用者がして欲しいことを知る」ことの大切さを伝えています。		
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご見学時に左記にある内容に加え、趣味、気晴らし、大切にしている習慣、これだけはお願いしたい、というコダワリなど、あらゆる角度から情報を得られるように努めております。			
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	集団での生活の流れを基盤として理解して頂き、その上で、取り組めること、発揮できることのできるような環境づくり、ご提供に努めております。			
26	(10) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画に関して、ミーティングでケアマネからの周知、見える形で生活記録に添えています。またケアマネも共に介護に入り、双方で気づきがあれば、課題を共有していくようにしています。	利用者・家族の思いや希望を尊重した介護計画を立てています。基本は6ヶ月毎、状態に変化があった場合は随時見直しています。モニタリングは1ヶ月毎に実施しています。家族とは電話で連絡を密にとり情報を共有しています。「長生きがしたい」と願う利用者の介護計画は「食事の時はしっかり噛んで食べるようにする」「誤嚥がないように見守る」等、具体的な援助方法が明記されています。		

己 自部 外	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	特に変化、気づき、訴えがあったときは、特記事項に記入するようにして、埋もれてしまわないように直に連絡することにもしています。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な限りのニーズに対応できるように、プラン(P)、管理(K)に加え、管理者が宿直をすることで、臨機応変な流れに対応しております。		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人様の希望に沿うことができるように、地域とのつながり、楽しみが増し加わるような活動をして行きたいです。		
30	(11) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医に関しては、施設連携医の存在を見学時にご相談の上、ご判断をお願いしております。ご家族様やご本人様の希望により、従来のクリニックに家族様の協力の上、通院して頂くことも可能です。	ホームのすぐ隣には連携している診療所があります。医師は毎日ホームを訪れ 利用者の様子を把握し、夜間の救急時には訪問看護ステーションにオンコールで繋がる24時間医療の体制が確立しています。医療に関わる領域は医師に相談し、介護現場だけでは決めないようにしています。また月4回、歯科医の訪問があり、管理者は口腔ケアと嚥下に注力しています。入居前のかかりつけ医の受診は家族との通院を基本としています。常に家族と相談しながら利用者の健康を見守っています。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接しているクリニックとの関係性を大切に運営しております。何か変化があれば、気軽にご相談できるよう、また利用者様の益となるように、体制を整えております。		



己 自部 外	項 目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、 又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者 との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうし た場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	隣接の富田林病院、入退院支援センターの担 当者様には定期的にご挨拶をしております。ま た、施設連携医が富田林病院のサポート医で あり、受け入れ時に前向きな対応を頂けている ことも家族様や利用者様への安心に繋がって います。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段 階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でき ることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関 係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階で、状態急変への心構え、そして看取 り同意書の説明、支援、などを丁寧に細心の注 意を払いながら、回数を重ねて思いを共有でき るように努めています。	入所説明で看取りを行っていることを伝え、指針 マニュアルも作成しています。重度化や終末期 には本人・家族との話し合いを重ね、家族・医 師・ホームとで方向性を摸索し、本人の意思を 尊重し大切にすする支援を目指し実践をしていま す。看取りに関する考えは変わってよいことも家 族に伝えていきます。看取りを行うとで気づかされ ることや学ぶことも多く、感謝の気持ちをその後 のケアに活かす取り組みをしています。家族から は「最後まで本人の意思を尊重してくれて感謝し ている」等の声が寄せられています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は 応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力 を身に付けている	ヒヤリや事故報告書、過去の事例などを踏まえ て振り返りを大切にしております。またパニック にならないように簡素化、または連絡手段など の対応も重視しております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用 者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、 地域との協力体制を築いている	年に2回の避難模擬訓練、一回の通報訓練を 行い、火災時、台風水害時、地震時にすること を簡素下して周知しています。	避難訓練は年2回行い消防署に報告し、届けを 提出しています。災害時のマニュアルも作成し、 緊急時には自分の役割を把握し、優先順序を整 理、いざという時、実際に行動できるイメージが 持てるよう職員に促しています。備蓄品には飲 料水・乾パンなどを揃え、賞味期限をチェックし、 年単位で一斉に入れ替え期限切れを防いでいま す。	

己	自	部	外	項目	自己評価		外部評価		
					実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>									
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている			弊社の理念に言葉遣いが御座いますが、良い関係性を築くことができた後も、尊厳という言葉をお忘れなように心掛けております。		「その人をよく知る」こと、そして「その人を好きになる」ために利用者に寄り添い、一人一人の気持ちを感じるとのこと、また「尊厳を第一に」を理念にも掲げ実践しています。重度の利用者に対しても柔らかい口調で意思を確認しながら食事介助を行っています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている			望まれる生活の実現に受けて可能な限りの支援、話し合いを持てるように心がけています。		/		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している			特にコロナ禍では、グループホームでの生活基盤という基準軸を大切に頂く必要がありますが、その中で利用者様が、望む生活にむけての取り組みは、大変重要なことだと考えております。		/		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している			利用者様には、お声掛けで衣類の選択、または鏡を見て頂き、整容して頂くように支援しております。		/		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			利用者様には台所に入って頂くことをご遠慮願っています。しかしリビングでできる、皮むきや片付け、掃除などお手伝いをお願いしております。		食事は交代で職員が担当し、調理しています。コロナのため利用者が調理を手伝うことは控えていますが、ホットプレートでおやつを作るときなどは簡単な手伝いをして作る楽しみも満喫しています。「好みの献立を温かいものは温かく、冷たいものは冷たく」をモットーにフロアごとに別メニューで提供する食事はホームの自慢の一つです。管理者は食事の大切さを考え、自ら嚆下の勉強をしています。		

己 自部 外	項 目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	生活記録で水分、食事量を管理しております。個別に水分摂取をどうしても拒否され、深刻な状態に陥る可能性がある場合などに関しては、医師または家族様と相談の上、OS1ゼリー等で対応させて頂いています。			
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	定期訪問の歯科衛生士さんから適宜ご指導いただきながら、口腔ケア、誤嚥性肺炎予防に関することを学び、対応しております。			
43	(16) ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	生活記録を通して排泄パターンを把握し、最小限のオムツ使用になるように取り組んでおります。またトイレで排泄は行う、という認知を促しております。	「よく食べ・よく寝て・よく動く」毎日を大切にしています。太陽に当たることを心がけ「芝生のところに行こう」など声かけにも工夫をし外気浴に誘っています。日常的な生活リズムを整えることは排泄の向上に繋がり、「付添う・寄り添う・見守る」ことでトイレでの排泄を促し、自分のできる力を引き出す支援を目指しています。		
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便コントロールを支援できるように記録ノートを用いて、個々に応じた排便薬を医療者に相談しております。また水分量や運動量などを見直しております。			
45	(17) ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	見守り支援で入浴が可能な方に関しては、お声掛けを行い時間帯の制約は御座いますが、入浴していただけるように周知、努めております。	職員は「入浴はたつぷりと利用者とかかわることができる贅沢な時間」と考え大切にしています。週2回の入浴で、気分が進まない利用者は日にちの変更を行なうようにしています。入浴が困難な時は利用者に合わせて清拭をしています。		
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	枕の調整やお体の痛みなどの訴えに関しては、適時間き取りを行っております。また契約時に部屋割りを行わず、集団生活、状態変化に対応できるようにご説明、ご納得を頂いております。			

己 自部 外	項 目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方があったときは、原則家族様には報告をさせて頂き、その根拠と服用するメリットとデメリットをお伝えしつつ、服薬開始後のご様子の変化や転倒等の危険性に関して職員に周知するように努めております。			
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人様の趣味や特技を生かせることができるように、披露の機会を設けたり、役割をもって頂けるようお願い事、ご依頼をしています。			
49	(18) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族様にご協力頂き励行してまいりましたが、コロナ禍が定着し、高齢者の死亡リスク、クラスターの高発生率を抑制する結果、職員以外の者との外出は原則禁止しております。その中で職員が近隣への散歩に努めております。	散歩は利用者と1対1に向き合える時間と職員は捉え、会話を促し楽しんでいます。ホームの近くには散歩に最適な遊歩道もあり、密を避けながら日課のように行う散歩で地域との触れ合いを大切にしています。家族との外出はまだ控えています。今できることを工夫し進めています。		
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お一人一人の管理能力に応じて、支援しております。現状は数名支援しております。一方、お金に関するBPSDや、利用者間トラブルが大きな課題になります。			
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、家族様にもご連絡の上、支援にあたっております。			
52	(19) ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的で開放的な空間づくりを目指し、自由にソファーなどに座られたり、季節の花を生けたり、壁紙の作成や、気温なども確認しつつ、取り組んでおります。	フロアからは、ゴルフ場やPLの塔を背景に季節の移ろいを眺める事ができます。玄関には季節の花を飾り、居間は職員とゆっくり話のできる温かな空間となっています。歩行介助をしている声掛けが心地よいリズムを刻み、居心地の良い生活のアクセントになっています。		

己 自部 外	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者 同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をして いる	自席の位置は、トラブル回避のために設けてい ますが、ソファなどで思い思いに座られたり、 お話しできるように工夫しております。		
54	(20) ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しな がら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人 が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は狭いですが、馴染み深いものを持ち込 むことで、ご本人様の居心地に合うように配 置、設置しております。	居室は、畳・押し入れのふすま・窓の障子と和の 設えで慣れ親しんだ環境です。利用者は使い慣 れたものを持ち込み、簡素な中にも自分らしさが あります。利用者を見守るように置かれた家族 の写真が安心を醸し出していたり、居心地の良 い「自分の居場所」と思える居室づくりを心がけ ています。	
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を 活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れる ように工夫している	単純な内装になっていますが、トイレや入浴が 分かるように、工夫しております。		